

柏原市の財政状況について

～令和4年度決算～

令和6年3月作成
柏原市 財務部 財政課

柏原市公認キャラクター
かしびょん



もくじ

財政とは	2
歳入（一般会計）について	3
歳出（一般会計）について（性質別）	4
一人あたりの歳入・歳出について（令和4年度決算）	5
令和4年度の主な施策について	6
歳入歳出の推移について	7
地方債の残高について	8
基金の残高について	9
財政指数について	10
今後の財政見通しについて	11
これからの柏原市について	12

「財政」とは

● 「財政」について

「財政」という言葉を一言で表すと、「お金のやりくり」と言うことができます。

皆様のご家庭が、毎月の給料で食費や光熱水費、学費、ローン返済などの支払いをしながら生活しているように、市では皆様に納めていただいた税金などのお金を集めて管理し、学校や図書館などの運営、子育て、介護、障がい者の支援、道路や下水道の維持管理、ごみの回収など、さまざまな行政サービスを行っています。

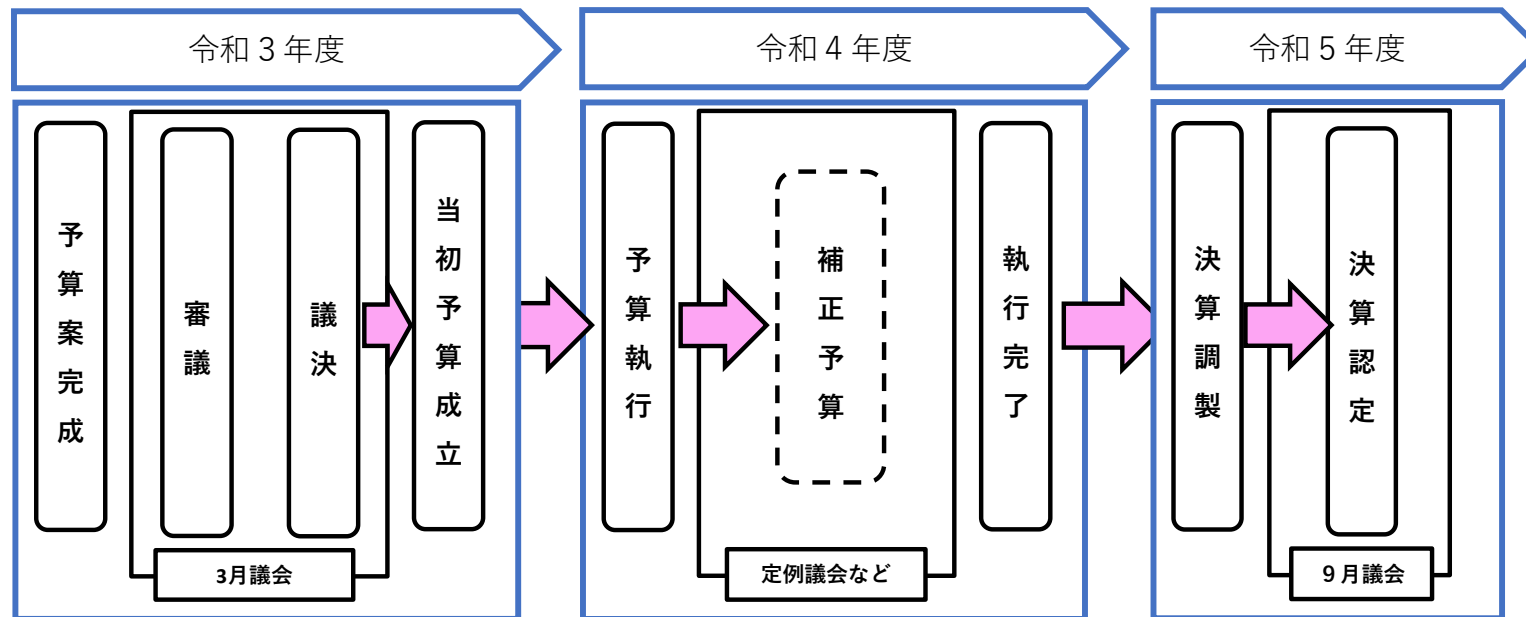
● 「予算」と「決算」について

「予算」とは、先ほどご説明した行政サービスを行うためのお金のやりくりの「計画書」を意味します。

4月～3月までの1年間の税金などの収入額を予測し、その収入額に見合ったお金の使い道を決めます。

「決算」とは、4月～3月までのお金のやりくりをした結果を表す「成績表」と言えます。

○予算から決算までの流れ（例：令和4年度予算・決算の場合）



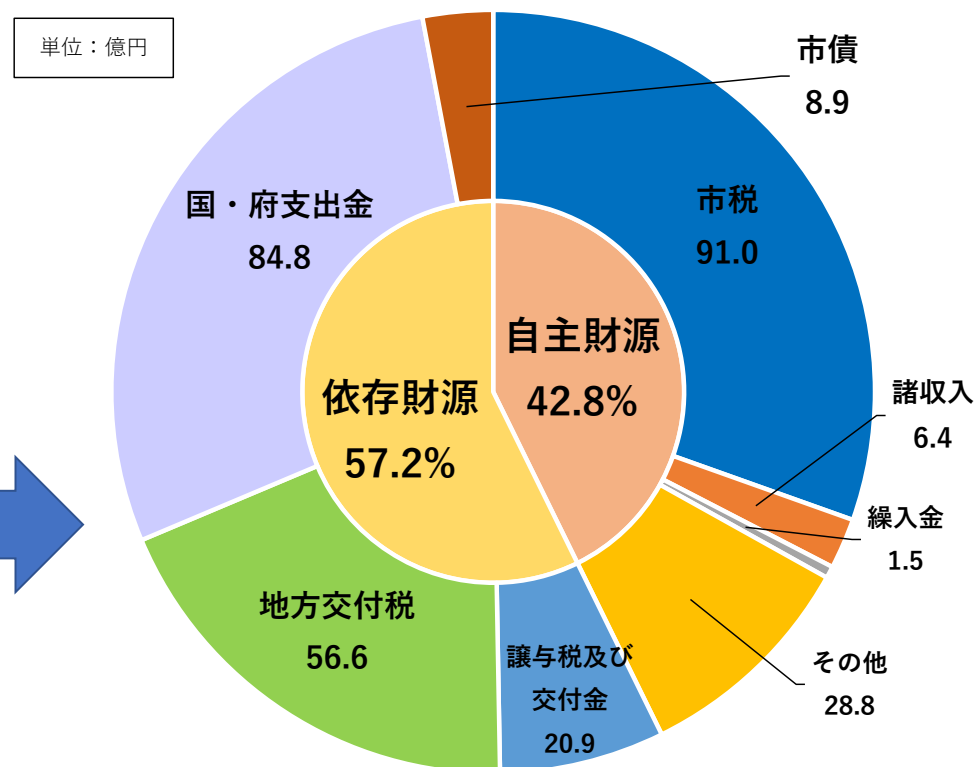
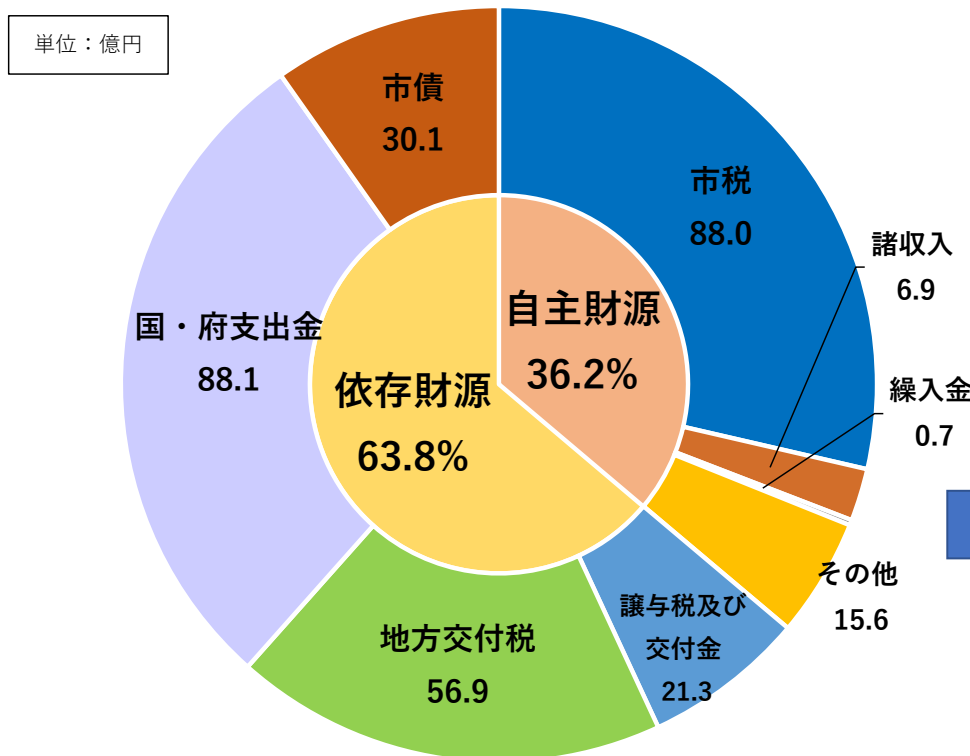
次のページから、柏原市の決算の状況を見てみましょう。

歳入（一般会計）について

令和4年度決算は歳入総額298億9,168万円となり、前年度（307億6,241万円）と比べ8億7,073万円減少しました。

令和3年度歳入総額：307億6,241万円

令和4年度歳入総額：298億9,168万円



用語の解説

「自主財源」と「依存財源」について

- 自主財源
税金など、市が自主的に収入できる財源
- 依存財源
国や府の基準に基づき配分される財源で、自主的に収入できない財源

○主な増加項目

その他：財産収入（土地売却収入）や寄附金（まちづくり応援寄附金）の増などにより+13億1,936万円

○主な減少項目

国・府支出金：国庫支出金の減などにより△3億3,221万円

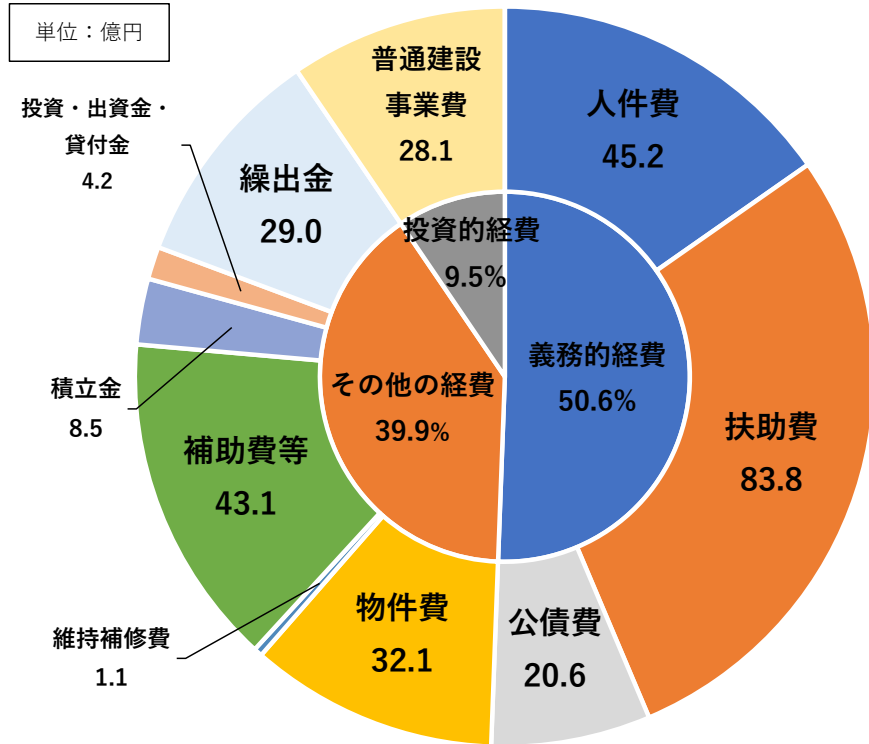
市債：庁舎施設整備事業債や臨時財政対策債の減などにより△21億1,962万円

歳出（一般会計）について（性質別）

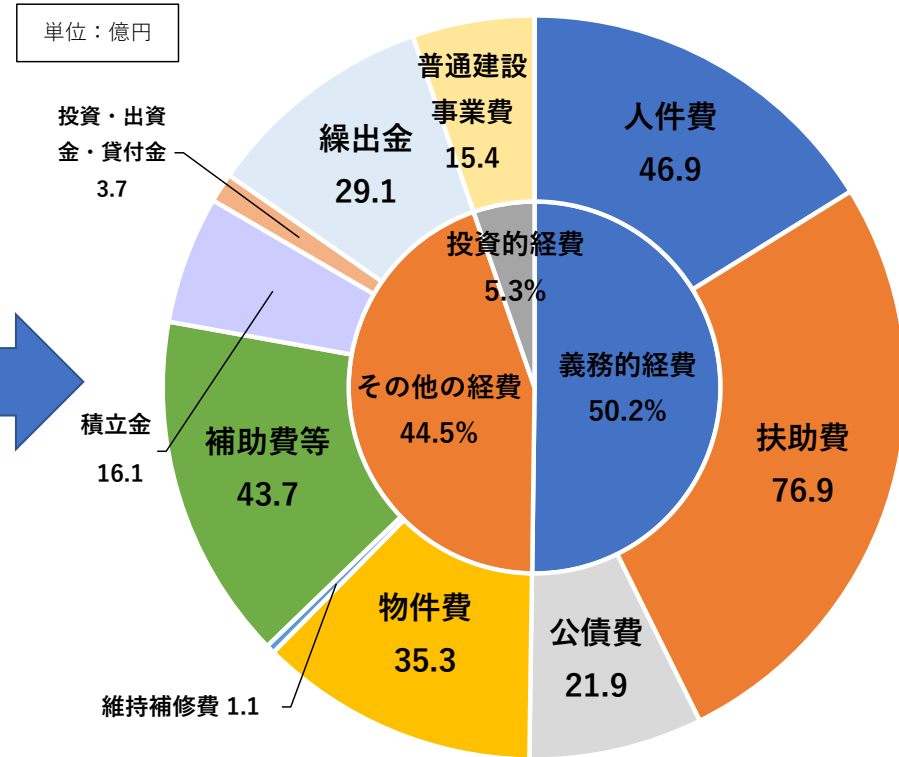
※性質別＝経済的な性質でお金の使い道を区分した歳出です。

令和4年度決算は歳出総額290億1,268万円となり、前年度（295億7,421万円）と比べ5億6,153万円減少しました。

令和3年度歳出総額：295億7,421万円



令和4年度歳出総額：290億1,268万円



用語の解説

「義務的経費」について

「義務的経費」とは、その支出が義務付けられているもので、市の裁量で削減することが難しい経費のことであり、人件費・扶助費・公債費があてはまります。義務的経費の割合が高いほど、自由に使える経費が限定されることになるため、財政的なゆとりが少なくなります。

○主な増加項目

物件費：ふるさと納税推進事業や光熱水費の増などにより+3億2,366万円

○主な減少項目

扶助費：新型コロナウイルス感染症対策に伴う各種給付金事業の減などにより△6億9,124万円

普通建設事業費：庁舎施設整備費の皆減などにより△12億6,574万円

一人あたりの歳入・歳出について（令和4年度決算）

令和4年度の決算額を一人あたりに置き換えると以下のとおりです。



一人あたりの歳入

区分	家計に例えると…	決算額 (億円)	一人あたり (円)	割合
【市税】	給料	91.0	135,990	30.4%
【諸収入】	パート収入	6.4	9,623	2.2%
【繰入金】	貯金の 取り崩し	1.5	2,243	0.5%
【その他】 財産収入 など	駐車場収入 など	28.8	43,105	9.7%
【譲与税及び交付金】		20.9	31,278	6.9%
【地方交付税】	助成金	56.6	84,669	18.9%
【国・府支出金】		84.8	126,751	28.4%
【市債】	銀行借入	8.9	13,286	3.0%

一人あたりの歳出

区分	家計に例えると…	決算額 (億円)	一人あたり (円)	割合
【人件費】	食費	46.9	70,059	16.2%
【扶助費】	医療費	76.9	115,036	26.5%
【公債費】	ローンの返済	21.9	32,701	7.5%
【物件費】	光熱水費・ 被服費など	35.3	52,841	12.2%
【維持補修費】	家の補修 費用	1.1	1,668	0.4%
【補助費等】	自治会費 など	43.7	65,338	15.1%
【その他】 繰出金・投資・出資金・ 貸付金・積立金	○仕送り ○融資 ○貯金	48.9	73,046	16.8%
【投資的経費】	家の増改築 費用	15.4	23,113	5.3%

令和4年度の主な施策について

にぎわいづくり

地域応援商品券事業

コロナ禍における物価高騰に対応するため、市民1人につき3,000円分の商品券を配布しました。

【決算額】

2億3,387万円



プロジェクション マッピングによる観光振興

亀の瀬トンネル内にプロジェクションマッピングの設備を設置しました。

【決算額】

4,445万円



行財政運営

公共施設等再編 整備基本計画の策定

公共施設の最適化を図ることを目的とした、公共施設等再編整備基本計画の策定に着手しました。

【決算額】

1,899万円



DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進

電子図書館の導入

24時間365日パソコンなどで電子書籍を読むことができる電子図書館サービスを導入しました。

【決算額】

3,105万円



バスロケーションシステム構築

利用者の利便性向上のため、バスの位置情報をウェブで閲覧できるシステムを構築しました。

【決算額】

3,297万円



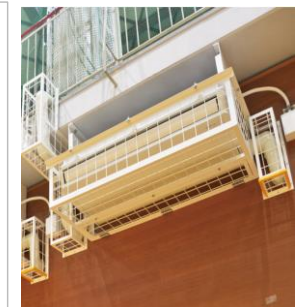
子育て・教育関連

学校体育館への 空調設備の設置

国分中学校・堅下北中学校の屋内運動場に空調設備を設置しました。

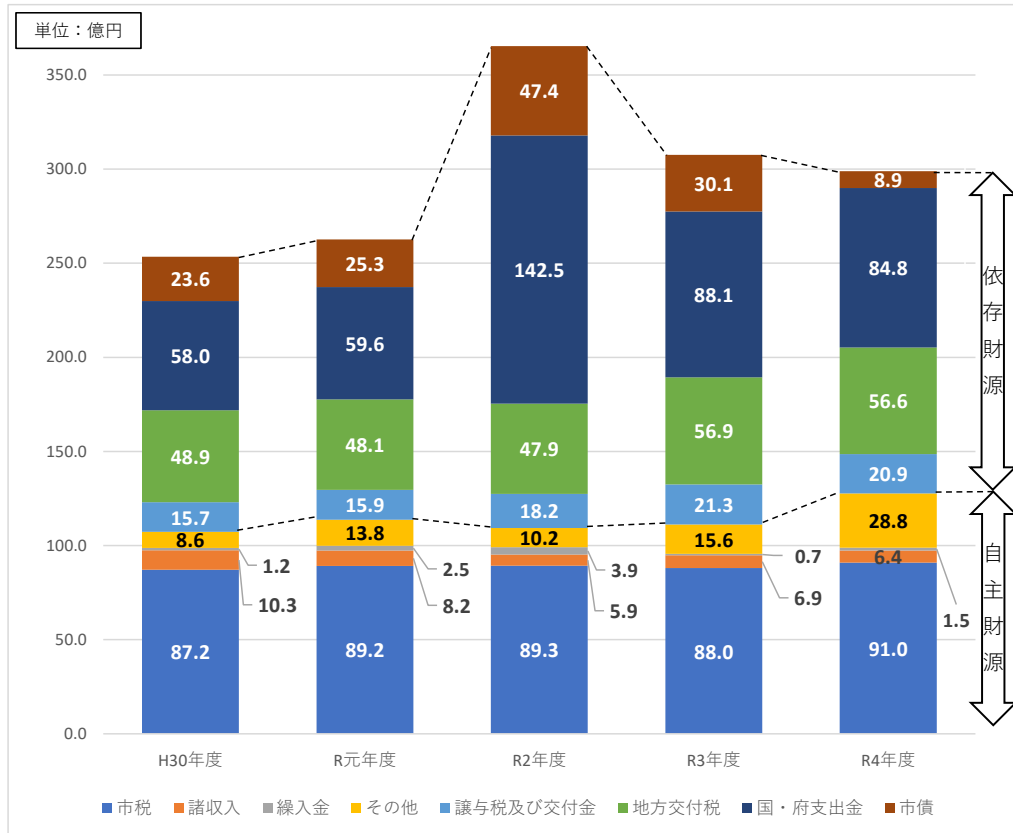
【決算額】

2億2,111万円

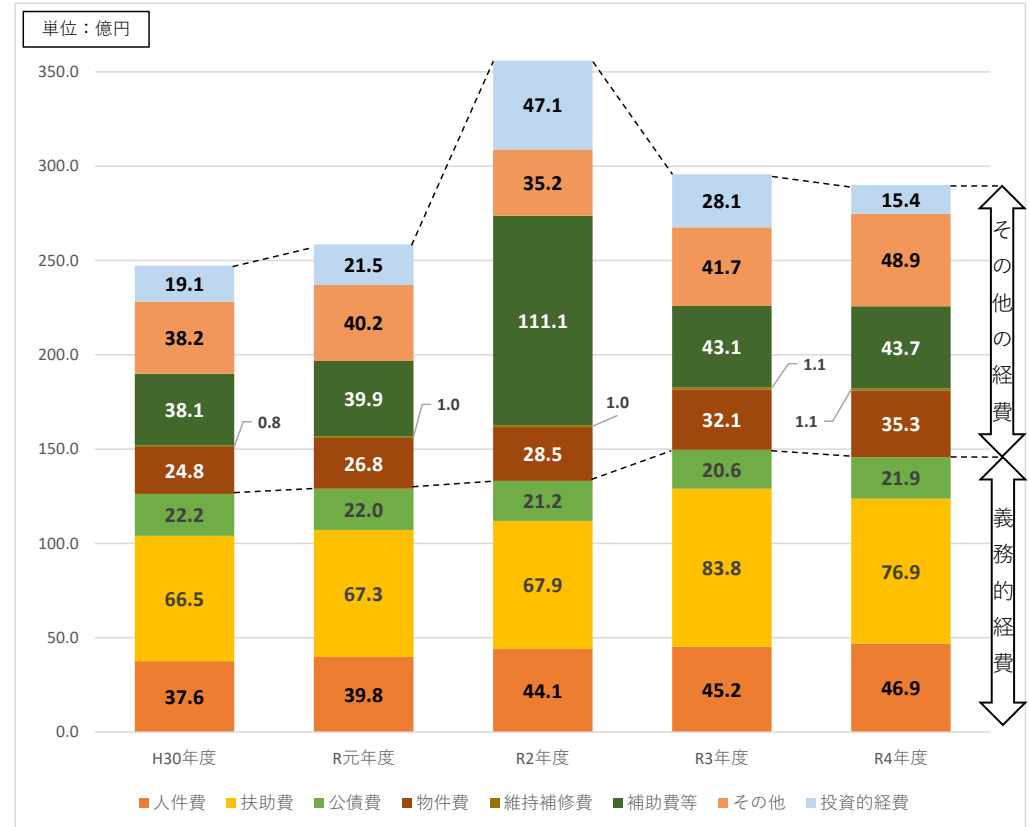


歳入歳出の推移について

歳入額の推移



歳出額の推移



○歳入額の推移について

依存財源は、高齢化の進展に伴う社会保障関連経費の増加による国・府支出金や地方交付税の増などにより、全体に占める割合が増加傾向にあります。

一方、自主財源は、令和4年度は財産収入や寄附金の増などにより前年度より増加しましたが、依存財源が増加することで全体に占める割合は相対的に減少傾向にあります。

○歳出額の推移について

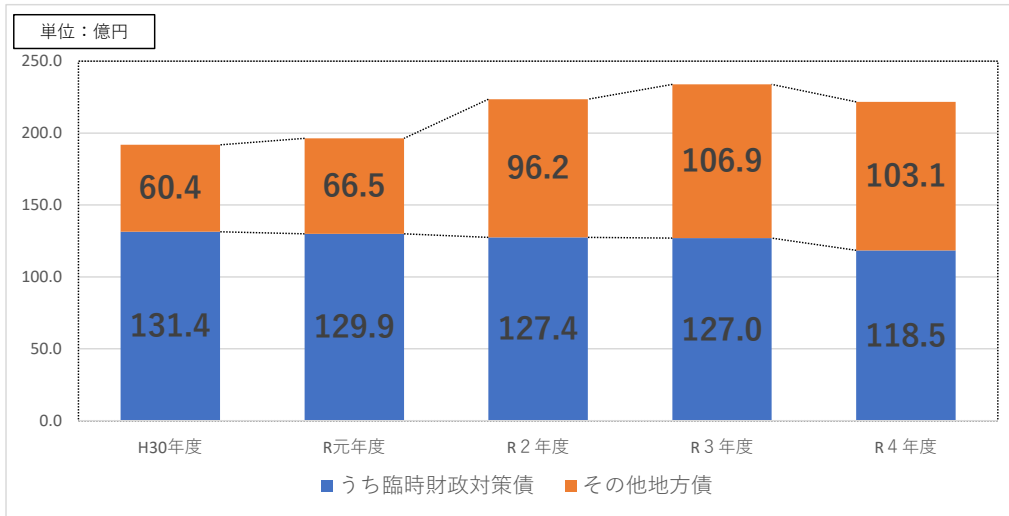
義務的経費である人件費、扶助費、公債費は、いずれも増加傾向にあり、高い割合で推移しています。

投資的経費についても、令和3年度まで庁舎や認定こども園の建設を行ったことから、高い割合で推移しています。

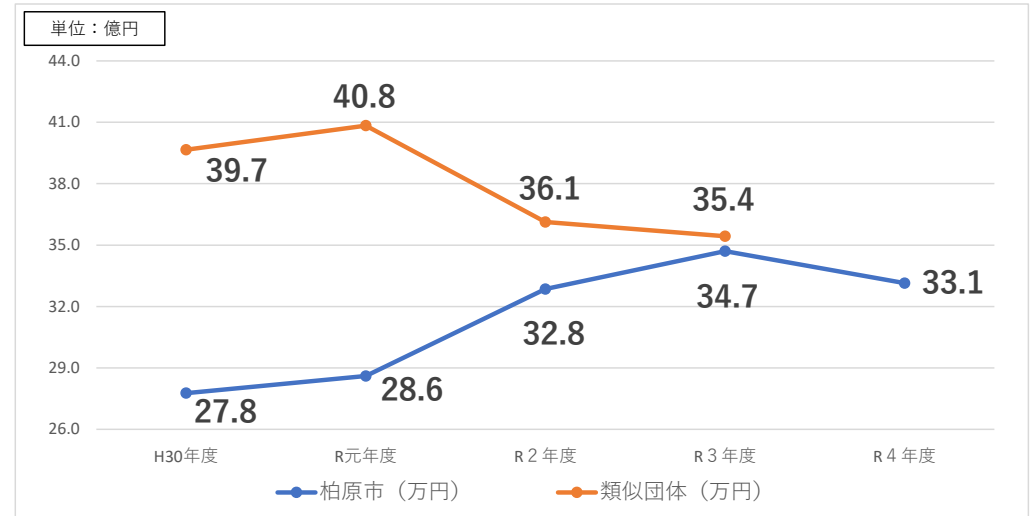
その他の経費では、物価や人件費の上昇により物件費や補助費等が増加傾向にあります。

地方債の残高について

地方債残高の推移



地方債残高の推移（一人あたり）



○地方債残高の推移について

事業の実施内容や実施時期を精査するなどし、地方債の新規発行を抑制したことや過去に借り入れた地方債の償還が終了したことから、地方債残高は減少傾向にありました。ただし、近年は庁舎建設などの大規模な事業に着手したことで、地方債残高は増加傾向にあります。

○類似団体との比較について

令和3年度末時点で、市民一人当たりの地方債残高は34.7万円で、類似団体との差は7千円となり、前年度より差が小さくなっています。このことから、地方債残高の推移でも触れたとおり、近年の地方債残高が増加傾向にあることが分かります。

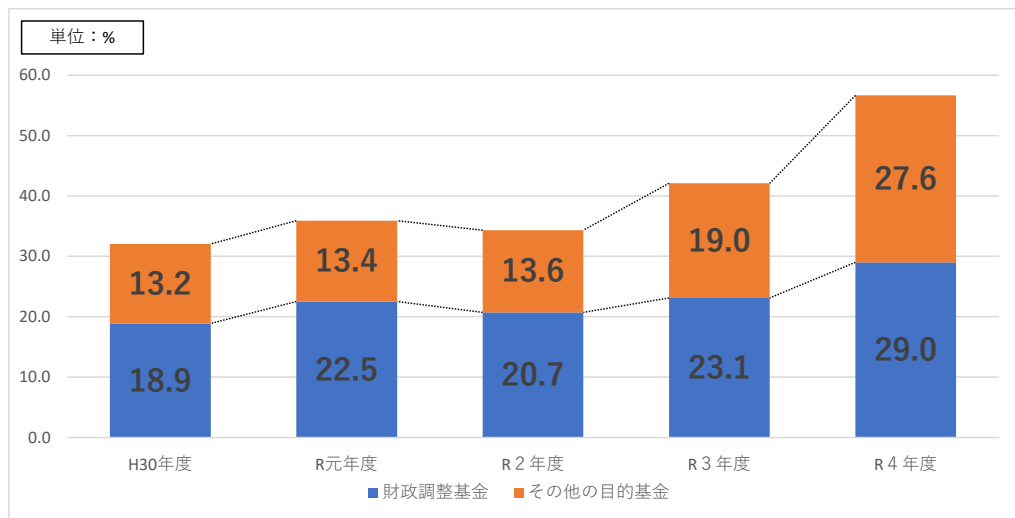
「地方債」は市の借金のことだね。柏原市は借金をしないとイケないくらいお金がなくて大変な状況なのかな。



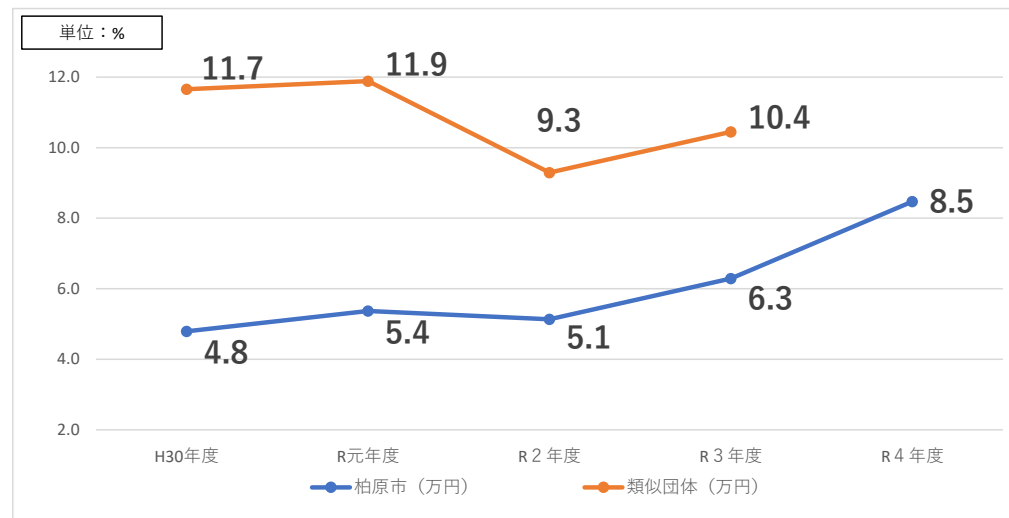
たしかに借金ですが、図書館や公園などの公共施設の場合、建設から数十年は施設の利用が可能のため、将来世代にわたり負担いただくという考え方で地方債の借入を行い、借り入れた地方債は、決められた期間の中で毎年一定額を返済していきます。ただ、借金には変わりないため、地方債の発行にあたっては将来世代の負担にならないよう適切な判断を行う必要があります。

基金の残高について

基金残高の推移



基金残高の推移（一人あたり）



○基金残高の推移について

庁舎建設費用の一部を基金で賄うために財政調整基金を取崩したことなどから、令和2年度は積立額が減少しています。令和3年度及び令和4年度はそれぞれ前年度剰余金が増加したことにより、積立額が増加しています。

また、令和4年度は「その他の目的基金」に大幅な増が見られますが、これは土地売払収入を公共施設等整備基金に積み立てたことによるものです。

○類似団体との比較について

令和3年度末時点で、市民一人当たりの基金残高は6.3万円で、類似団体と比較して約4万円少ないことがわかります。今後は老朽化した公共施設の再編事業費への充当により積立額が減少していくことが見込まれることから、収支のバランスを見極めた財政運営が必要となります。

「基金」は市の貯金のことだね。柏原市の状況をみると他の市よりも貯金額が少ないみたいだけど大丈夫なのかな。

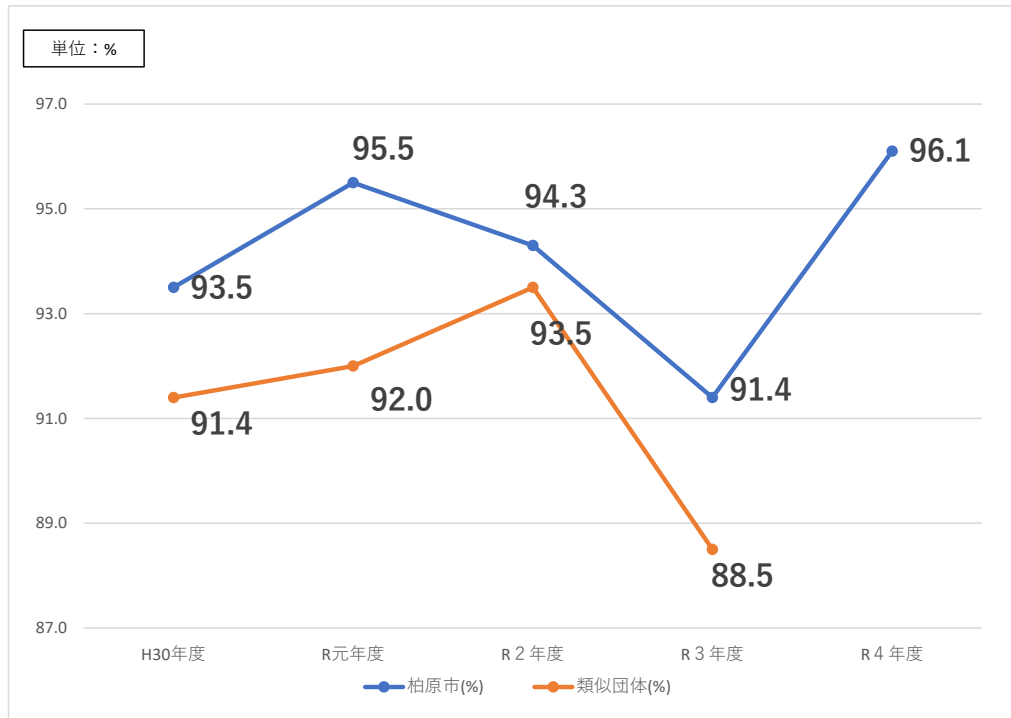


財源不足や災害の発生といった不測の事態に備えて、ある程度の貯金が必要となります。厳しい財政状況の中で基金の大幅な増額が見込めない状況を踏まえ、収支の均衡を図りつつ、計画的に基金を積み立てていく必要があります。

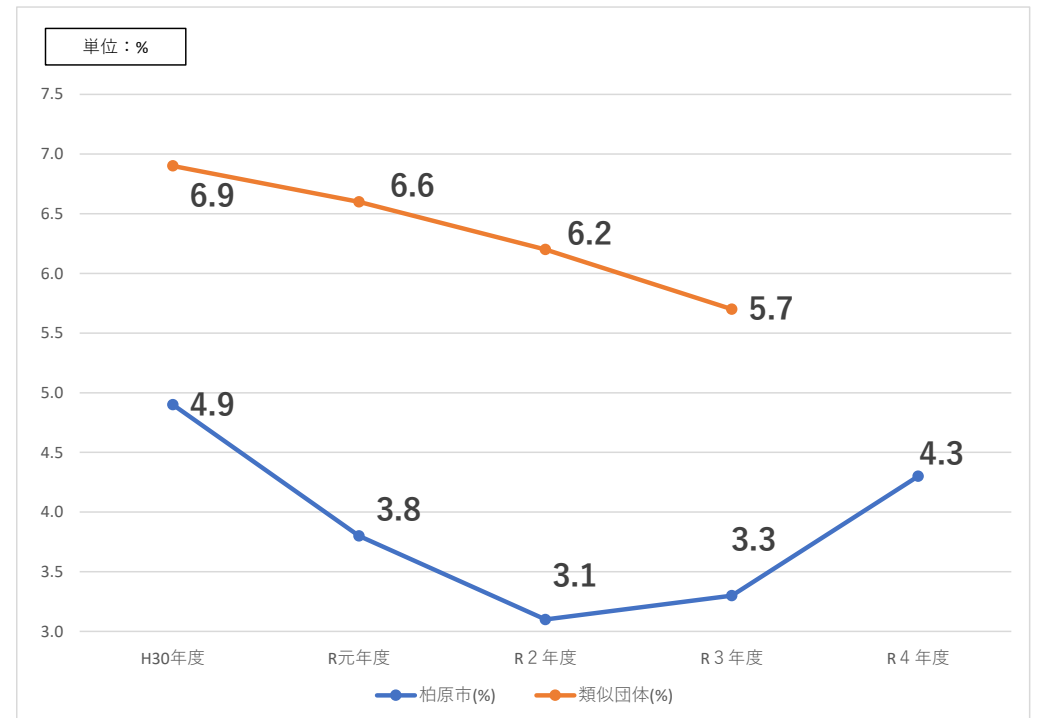


財政指数について

経常収支比率の推移



実質公債費比率の推移



用語の解説

○**経常収支比率**・・・毎年度継続して収入される市税などの経常的収入が、毎年度決まって支出される人件費、扶助費などの経常的支出にどれだけ充当されたかを示す指標です。

○**実質公債費比率**・・・地方公共団体の借入金（地方債）の返済額（公債費）の大きさを、その地方公共団体の財政規模に対する割合で表したものです。
どちらの比率も数値が低いほど財政に余裕があるといえます。

○類似団体との比較について

○**経常収支比率**・・・類似団体と比べて高く推移しており、令和4年度の数値は経常的収入が減となったことに加えて、経常的支出が増となったことから、前年度と比べて悪化しています。

○**実質公債費比率**・・・類似団体と比べて低く推移しており、新規の地方債の発行を抑制してきたことなどから数値は減少傾向にありましたが、財政規模の減少に加え、小学校空調整備や新庁舎建設の際に発行した地方債の償還が本格化したことなどにより、令和4年度の数値は前年度と比べて悪化しています。

今後の財政見通しについて



本市の今後の財政状況の見通しについて、令和4年度決算額を基に推計しました。令和5年度以降は、老朽化施設の改修費用の増加や物価高騰の影響により、収支不足額が発生する見込みです。

区分	決 算	今 後 の 見 通 し					(単位：億円)
	R4	R5	R6	R7	R8	R9	
市税	91.0	89.9	90.3	89.9	89.4	88.7	
地方交付税(臨財債含む)	59.6	59.6	59.6	59.6	59.6	59.6	
交付金・地方譲与税等	20.9	20.5	20.4	20.3	20.2	20.0	
国・府支出金	84.8	82.4	85.6	89.2	92.1	90.3	
地方債	5.9	6.2	12.8	21.7	18.5	6.8	
その他	36.7	23.3	15.3	15.3	15.3	15.3	
歳入合計 (A)	298.9	281.9	283.8	295.9	295.0	280.6	
人件費	46.9	44.1	46.7	44.1	45.8	44.1	
扶助費	76.9	79.5	82.2	85.1	88.2	88.2	
公債費	21.9	21.1	21.0	20.2	20.5	20.7	
建設事業費(災害復旧含む)	15.4	16.3	24.2	36.6	34.5	18.4	
その他	129.0	121.8	118.5	119.7	121.1	122.0	
歳出合計 (B)	290.1	282.8	292.4	305.6	310.1	293.2	
収支合計 (A) - (B)	8.8	▲ 0.8	▲ 8.6	▲ 9.7	▲ 15.1	▲ 12.6	

※令和4年度の数値は決算額であり、令和5年度以降の数値には含まれていない基金繰入金が含まれています。

これからの柏原市について

色々な数値で令和4年度の柏原市の現状を見てきたけど、そこまで悪くないように思うのに、どうして今後は財源不足額が出てしまうの？



柏原市では、平成22年度に策定した『柏原市行財政健全化戦略』に基づき、新たな財源の確保や歳出の抑制に努めたことで、これまでは健全な財政運営を続けてきました。

しかしながら、少子高齢化が進み、将来的には生産人口の減少が見込まれることから、財政基盤の根幹である税収が減少していく事が予測されます。その一方で、人件費や扶助費といった費用が年々増加していますし、市内の公共施設（図書館・学校など）の老朽化対策などに今後多額の費用が必要となります。加えて、昨今の光熱水費や物価の高騰などの影響で様々な費用が増加することが予想されるため、今後は歳出全体が大きく増加していく見込みです。その結果、歳出の増加を歳入で補えない可能性が高くなったことで、財源不足額が発生する見込みとなりました。

光熱水費や物価の高騰がいつまで続くか分からないし、老朽化した施設の対策にもお金はかかるけど、市の貯金がたくさんあるから、そこまで心配しなくてもいいんじゃないの？



市はこれまでの取組を通じ、様々な理由で財源不足の発生に備えるため、貯金をしてきました。しかしながら、昨今の急激な物価などの上昇は想定以上のため、もし、このような状況が続けば、数年で貯金が底をついてしまうことも考えられます。

そのため、これまでの取組みを続けることはもちろんですが、今まで以上に新たな財源の確保や歳出抑制を行うことで、財源不足の解消を図っていく必要があります。

貯金がたくさんあるからといって安心はできないんだね。厳しい状況だけど、財源不足を発生させないために何ができるかをみんなで考えていくことが必要だね。





柏原市の財政状況の改善と持続可能な発展に向け、今後とも様々な取組を行っていきます。
市民の皆様におかれましても、以下の取組などを参考に、市政運営へのご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

《将来にわたって住みよい柏原市とするため、市民の皆様にご協力いただきたいことの一例》

- ・ 税や国民健康保険料などの納期内の納付をお願いします。
- ・ ごみ処理に係る費用を削減するため、食品ロスの削減やごみの分別、資源ごみのリサイクルの活用でごみの削減をお願いします。
- ・ 市が実施しています健康教室などもご活用いただき、健康維持のために適度な運動を取り入れましょう。（医療費や保険料の抑制にもつなげることができます。）